

BULLETIN OF THE KUMAMOTO WILDLIFE SOCIETY

熊本野生生物研究会誌

第 11 号



No. 11

Aug. 2022

THE KUMAMOTO WILDLIFE SOCIETY

<http://www.kumayaken.org>

目 次

序 熊本野生生物研究会会長 坂田 拓司	
短 報	
和田 英敏, 松井 英司, 松井 謙弥, 本村 浩之: 熊本県菊池川から得られた絶滅危惧種アリアケシラウオの確かな記録	1
資 料	
安田 雅俊: 熊本のヤマネは江戸をみたか	5
鈴木 圭, 小園麻由美: 熊本市のカササギ <i>Pica pica</i> の記録	7
渋谷 直樹, 寺崎 昭典, 杉浦 直人: 熊本市立山山におけるサトウラギンヒョウモン (鱗翅目: タテハチョウ科) の初採集記録	9
安田 雅俊: 立山山のコウモリについて	11
前田 史和: 阿蘇市におけるアライグマ <i>Procyon lotor</i> の初確認	15
坂田 拓司, 入江 照雄: 九折瀬洞・吐合洞・内谷洞におけるコウモリ類の動態 1967-2002	19
坂田 拓司, 坂本真理子, 前田 史和, 天野 守哉: 熊本県におけるコウモリ類に関する生息調査報告 (Ⅲ)	25
意 見	
安田 雅俊, 鈴木 圭: ニホンカモシカ九州個体群の減少傾向に関する見解	41
会 記	
天野 守哉: 熊本野生生物研究会の歩み その8	45
投稿規定	51
会誌審査 (査読) 規定	53
会 則	54
編集後記	55

2022年 8 月



熊本野生生物研究会

<http://www.kumayaken.org>

序

熊本野生生物研究会 会長

坂 田 拓 司

熊本野生生物研究会会誌は今回で11号となります。会誌の歴史をひもとくと、第1号の発刊が本会発足である1985年から7年後の1992年でした。それは、故西岡鐵夫元会長の序に始まり、中園敏之さん、田代周史さん、高野茂樹さん、坂田拓司ほか、歌岡宏信さんによるの各種報文、最後に高添 清顧問の会記（熊本野生動物研究会の歩み）からなる、B5判46ページの冊子でした。当時、パソコン（PC-9800シリーズ）がほとんどの学校の職員室に導入されるようになっていましたが、奥手の私はまだほとんどキーボードに触れていませんでした。そのような中、牛深大島のカイウサギの調査結果を私がまとめることになり、「一太郎」（ワープロソフト）や「Lotus 1-2-3」（表計算ソフト）を四苦八苦しながら始めました。当時の中園さん自宅（旧矢部町浜町）にずいぶん通って必死で仕上げた記憶が残っています。第2号は1966年に高添顧問が編集委員長として、アフリカ研修の報告をメインに発行されました。以後2002年に3号、2005年に4号、2009年に5号、2010年に6号、2012年に7号、2015年に8号、2019年に9号、2020年に10号、そして今年2022年の11号です。第3号以降は私が編集委員長を務めていますが、会員の調査研究や会の活動が文献として蓄積されていくことは、喜びでもあり重責でもあります。また、地道な調査研究活動は本会会誌のみならず、全国レベルの学会誌への掲載にもつながっています。

今回、哺乳類のみならず魚類や鳥類、昆虫分野からの投稿がありました。これは本会の目的である「生物多様性の保全に寄与する」の具現化ですし、西岡元会長が常日頃おっしゃっていた「森羅万象を知る」に沿う内容です。

一向に収まらないコロナ禍においても地道な活動を続けている会員諸氏におかれましては、今後も本誌の充実に向けて積極的な投稿をお願いいたします。最後になりましたが、投稿頂いた会員諸氏、真摯に査読頂いた審査委員のみなさま、多事多端な中で労をとって頂いた編集委員に感謝申し上げます。

2022年8月吉日